

## マツノゴマダラノメイガ (モモノゴマダラノメイガ針葉樹型)

マツなど常緑針葉樹の葉を集団で食べるイモムシ（幼虫）。最大長約25mm。頭は暗い茶色。体は淡い黄土色で背面はやや赤みがかかる。暗い斑紋がある。頭のすぐ後の背面と尾端背面は暗い茶色。

本州ではマツの害虫とされる。北海道には本来分布しないようだが、盆栽などについて持ち込まれることがある。

【学名】 *Congethes* sp.

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , メイガ科 (Pyralidae)

【分布】 北海道?, 本州, 四国, 九州; 台湾.

### 【生態】

宿主：モミ属, トウヒ属, カラマツ, ヒマラヤスギ, マツ属など.

本州では年1～2世代, 幼虫が小さなときに越冬するといわれている。幼虫は集団で葉を糸でつづって食べる。

### 【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態) .

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツノゴマダラノメイガ meiga/matugoma/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/26.